

第8波懸念「オミクロン株ワクチン」いつ追加接種するのがベストか

2022/11/08 上昌広医療ガバナンス研究所 理事長 日刊ゲンダイ



オミクロン株対応ワクチンの追加接種が進んでいる。「どうすればいいですか」と聞かれることが増えた。私は、このような質問を受けた時、「すでに3回、あるいは4回接種を済ませているなら、感染が本格化した段階で打てばいい」と助言している。その理由を紹介しよう。

まず、注目すべきは、オミクロン株の毒性が低いことだ。重症化リスクはインフルエンザと変わらない。問題は、コロナが感染症法の2類相当のまま据え置かれていることだ。感染した場合、症状があれば7日間の外出自粛、その後、3日間の感染予防行動の徹底が求められる。無症状でも、最低5日間は不要不急の外出の自粛が求められる。これは感染症法に基づく

法定措置だ。違反すれば「犯罪」となる。

もし、この時期が入学試験などのイベントにぶつかれば、出席できない。これは医師・看護師や教員などの国家試験も例外ではない。これまで政府は、感染はもちろん、濃厚接触で試験を受けられなかった人に対しても、追試などの救済措置を実施していない。コロナにかかったがため、留年を余儀なくされた学生もいる。

■長続きしない感染予防効果

どうすればいいか。最も有効な予防策は追加接種だ。ただ、問題もある。それは感染予防効果が長続きしないことだ。4月13日にイスラエルの研究チームが、米「ニューイングランド医学誌」に発表した研究によれば、60歳以上の高齢者に4回接種を行ったところ、3回接種と比べ、接種後1カ月間の入院は68%、死亡は74%減少したが、感染は45%しか減らず、接種後2カ月までに、効果は10%まで低下した。感染予防効果は2カ月弱しか続かない。

それなら、流行のピークに合わせて追加接種するのがいい。昨冬は年末から感染者が増加し、2月9日がピークだった。今夏は、7月中旬から感染者が増加し、ピークは8月22日だった。感染拡大から収束まで約2カ月だ。おそらく、第8波も同様の経過をたどるだろう。それなら、流行が本格化する11月末から12月に打つのが合理的だ。

すでに、このような対策を行っている国もある。そのひとつがイスラエルだ。同国の研究チームは、1月のオミクロン株の流行時期に、医療従事者に4回目接種を行うことで、感染リスクを65%低下させたと米医学誌に報告している。この時、イスラエルは2021年末から流行が本格化し、感染者数のピークは1月25日だった。まさに流行の真っ最中に医療従事者に一気にワクチンを接種したことになる。

人口約920万人のイスラエルだから実行可能だった施策だが、医学的には合理的だ。日本政府は追加接種を推奨しているものの、その時期については明言していない。読者の皆さんは、最もメリットがある時期に追加接種をしてもらいたい。